

572.524.12+612.118.221.2

# 指紋ならびに血液型上よりみたる日本人の研究

## 甑島々人の指紋および血液型について

### 第 2 編

#### 甑島々人の ABO 式 血 液 型

鹿児島大学医学部法医学教室（指導：前主任 三上芳雄教授）

村 永 兼 三

〔昭和 32 年 11 月 4 日受稿〕

#### 緒 言

すでに第 1 編においてものべたごとく、当教室においては三上教授がジャワ島インドネシア人について調査された指紋ならびに血液型の頻度を中心に、主として南方地方人と日本人、とくに九州日本人のそれと比較対照し、九州日本人の人類学的研究を企図してきたが、著者は本研究の一端として、その居住する甑島々人の指紋ならびに血液型を調査し、第 1 編において指紋の頻度について報告したが本編においては血液型の頻度について報告する。

#### 資 料

資料は第 1 編指紋の場合同様の主旨をもつて古くから甑島に土着した同島人を東西両海

岸および鹿島村の 3 群にわけて調査した ABO 式血液型であり、東海岸群（男子 4,175 名、女子 3,738 名、合計 7,913 名）、西海岸群（男子 726 名、女子 695 名、合計 1,421 名）および鹿島村群（男子 671 名、女子 762 名、合計 1,433 名）、総計 10,767 名の ABO 式血液型であり、各人についてはその系図等より厳選して不詳のものはすべてこれを除外した。

#### 成 績

##### 1. 长崎々人の ABO 式血液型の頻度

甑島東海岸、西海岸および鹿島村人各群ならびに甑島々人としての男女の ABO 式血液型の頻度を表示すると表 1, 2, 3 および 4 のごとくである。

東海岸人における頻度は男子において O 型 31.3%，A 型 38.1%，B 型 22.2% および

表 1

性別	調査人員	O	A	B	AB	民族示数	p	q	r
♂	4175	1306	1592	925	352	1.52	2.72	1.69	5.59
		31.3±0.71	38.1±0.75	22.2±0.64	8.4±0.42				
♀	3738	1171	1369	842	356	1.44	2.66	1.75	5.59
		31.3±0.75	36.6±0.78	22.6±0.68	9.5±0.47				
計	7913	2477	2961	1767	708	1.48	2.69	1.72	5.59
		31.3±0.52	37.4±0.58	22.3±0.46	9.0±0.32				

表 2

性別	調査人員	O	A	B	AB	民族示数	p	q	r
♂	726	167	295	160	104	1.51	3.24	1.97	4.79
		23.0±1.56	40.6±1.82	22.0±1.53	14.3±1.03				
♀	695	182	259	175	79	1.36	2.84	2.05	5.11
		26.2±1.66	37.3±1.85	25.2±1.64	11.4±1.20				
計	1421	349	554	335	183	1.43	3.04	2.01	4.95
		24.6±1.14	39.0±1.23	23.6±1.12	12.9±0.88				

表 3

性別	調査人員	O	A	B	AB	民族示数	p	q	r
♂	671	260	205	162	44	1.19	2.09	1.69	6.22
		38.7±1.88	30.6±1.77	24.1±1.64	6.6±0.95				
♀	762	286	259	166	51	1.42	2.23	1.65	6.12
		37.5±1.75	34.0±1.71	21.8±1.49	6.7±0.90				
計	1433	546	464	328	95	1.31	2.20	1.63	6.17
		38.1±1.28	32.4±1.23	22.9±1.11	6.6±0.70				

表 4

性別	調査人員	O	A	B	AB	民族示数	p	q	r
♂	5572	1733	2092	1247	500	1.48	2.70	1.73	5.57
		31.1±0.62	37.6±0.64	22.3±0.59	9.0±0.38				
♀	5195	1639	1887	1183	486	1.42	2.63	1.76	5.61
		31.5±0.64	36.3±0.66	22.8±0.55	9.4±0.38				
計	10767	3372	3979	2430	986	1.45	2.67	1.74	5.59
		31.3±0.44	37.0±0.46	22.6±0.40	9.2±0.27				

AB型 8.4%であり、女子においてO型 31.3%， A型 36.6%， B型 22.6%およびAB型 9.5%であつて、男女総計 7,913名においてはO型31.3%， A型37.4%， B型22.3%およびAB型 9.0%， ヒルシュフェルドの生物化学的民族示数は1.48であり、ウエリッシュのp, q, r の3血液型因子の頻度は p=2.69, q=1.72 および r=5.59 となる。

西海岸人における頻度は男子においてO型 2.30%， A型 40.6%， B型 22.0%およびAB

型 14.3%であり、女子においてO型 26.2%， A型37.3%， B型25.2%およびAB型11.4%である。そして男女総計 1,421名においてはO型24.6%， A型39.0%， B型23.6%およびAB型 12.9%であり、ヒルシュフェルドの生物化学的民族示数は1.43で、ウエリッシュのp, q, r の3血液型因子の頻度は p=3.04, q=2.01 および r=4.95 となつてゐる。

鹿島村人における頻度は男子においてO型 38.7%， A型 30.6%， B型 24.1%および

AB 型 6.6 % であり、女子において O 型 37.5 %, A 型 34.0 %, B 型 21.8 % および AB 型 6.7 % であり、男女総計 1,433 名においては O 型 38.1 %, A 型 32.4 %, B 型 22.9 % および AB 型 6.6 %, ヒルシュフェルドの生物化学的民族示数は 1.31, ウエリッシュの p, q, r の 3 血液型因子の頻度は  $p=2.20$ ,  $q=1.63$  および  $r=6.17$  となつてゐる。

甑島々人としての頻度は男子において O 型 31.1 %, A 型 37.6 %, B 型 22.3 % および AB 型 9.0 % であり、女子において O 型 31.5 %, A 型 36.3 %, B 型 22.8 % および AB 型 9.4 %

表 5

調査群	O	A	B	AB	民族示数	p	q	r
東海岸	31.3±0.52	37.4±0.58	22.3±0.46	9.0±0.32	1.48	2.69	1.72	5.59
西海岸	24.6±1.14	39.0±1.23	23.6±1.12	12.9±0.88	1.43	3.04	2.01	4.95
鹿島村	38.1±1.28	32.4±1.23	22.9±1.11	6.6±0.70	1.31	2.20	1.63	6.17

海岸人は西海岸人に優つており（東海岸人との  $Diff=6.7\% \pm 11.25\%$ , 鹿島村人との  $Diff=13.5\% \pm 1.71\%$ ），鹿島村人と東海岸人については前者において  $6.8\% \pm 1.38\%$  の頻差をもつてより優つてゐる。A 型の頻度においては東西両海岸人間になんら著差をみとめられないが見掛上は後者に頻度がたかく，鹿島村人にたいし両者ともにいづれも優つてゐる（東海岸人との  $Diff=5.0\% \pm 1.36\%$ , 西海岸人との  $Diff=6.6\% \pm 1.74\%$ ）。B 型の頻度は 3 者間にほとんど頻差をみとめられないが，概して日本人の平均よりも頻度がたかく，とくに西海岸において見掛上両者に優つてゐるようである。AB 型の頻度については西海岸人は東海岸人および鹿島村人に優つており（東海岸人との  $Diff=3.9\% \pm 0.93\%$ , 鹿島村人との  $Diff=6.3\% \pm 1.58\%$ ），しかも鹿島村人のそれがもつともひくい。

### 3. 镰島の東西両海岸および鹿島村人と九州各地方人との ABO 式血液型の頻度比較

著者の調査した甑島々人の ABO 式血液型の頻度を小林および西沢らによつて整理された九州各県人のそれや，馴田の大隅半島人な

となつており，男女総計 10,767 名についてはそれぞれ O 型 31.3 %, A 型 37.0 %, B 型 22.6 % および AB 型 9.2 % であり，ヒルシュフェルドの生物化学的民族示数は 1.45, ウエリッシュの 3 血液型因子の頻度は  $p=2.67$ ,  $q=1.74$  および  $r=5.59$  となつてゐる。

### 2. 镰島の東西両海岸および鹿島村人の ABO 式血液型頻度比較

前項の成績から甑島東西両海岸および鹿島村人の男女合計についての ABO 式血液型の頻度を表わしたもののが表 5 である。

すなわち，O 型の頻度は鹿島村および東

らびに西の種子島々人のそれと比較対照すれば表 6 に示すようである。

すなわち，甑島東西海岸および鹿島村人の O 型の頻度は熊本や宮崎および鹿児島地方人など，すなわち南九州地方群のそのいづれよりも優つてゐる。そしてこのうち東海岸人のそれは種子島々人にきわめて近似し，鹿島村人はさらにこれよりも優つており，はなはだしい頻差がみとめられる ( $Diff=7.1\% \pm 1.53\%$ )。さらに同表から九州各県の頻度を北九州地方群（福岡，大分，佐賀および長崎県）と南九州地方群（熊本，宮崎および鹿児島県）にわけて各総計を表示し（表 7 参照），これに比較すると，甑島の東西海岸や鹿島村人は O 型の頻度のたかい点で南九州地方群に属し，しかもとくに東海岸人はこれに近似しているが，鹿島村人はさらにこれを凌駕している ( $Diff=7.9\% \pm 1.30\%$ )。西海岸人は北九州地方群に接近するがこれよりも頻度がひくい ( $Diff=3.7\% \pm 1.15\%$ )。A 型の頻度においては東西両海岸人は南九州地方人と特別な頻差はないが，鹿島村人とは頻差があり，あきらかに後者に優つてゐる（北九州地方人との  $Diff=8.5\% \pm 1.48\%$ ，南九州地方人と

表 6

地 方	調査人員	O	A	B	A B	p	q	r	
甑島	東 海 岸	7,913	31.3±0.52	37.4±0.58	22.3±0.46	9.0±0.32	2.69	1.72	5.59
	西 海 岸	1,421	24.6±1.14	39.0±1.23	23.6±1.12	12.9±0.88	3.04	2.01	4.95
	鹿 島 村	1,433	38.1±1.28	32.4±1.23	22.9±1.11	6.6±0.70	2.20	1.63	6.17
福岡	29,246	28.8±0.26	41.6±0.29	20.7±0.24	9.0±0.17	2.99	1.64	5.37	
大分	4,291	28.2±0.69	39.8±0.75	21.3±0.62	10.7±0.47	2.95	1.74	5.31	
佐賀	3,887	28.3±0.72	38.7±0.78	22.6±0.67	10.4±0.49	2.87	1.82	5.32	
長崎	27,311	27.3±0.27	40.8±0.30	21.0±0.25	10.4±0.18	3.01	1.71	5.27	
熊本	18,681	30.1±0.34	39.9±0.36	20.3±0.29	9.7±0.22	2.89	1.62	5.49	
宮崎	2,665	30.8±0.89	39.1±0.95	19.2±0.78	11.0±0.61	2.87	1.58	5.55	
鹿児島	10,121	30.3±0.46	40.3±0.49	20.1±0.40	9.3±0.29	2.90	1.59	5.51	
大隅半島	3,741	30.3±0.75	39.2±0.79	20.8±0.66	9.8±0.48	2.84	1.65	5.50	
種子島	2,957	31.0±0.85	37.7±0.89	21.3±0.75	10.0±0.55	2.74	1.69	5.57	

表 7

地 方	調査人員	O	A	B	A B	p	q	r	
甑島	東 海 岸	7,913	31.3±0.52	37.4±0.58	22.3±0.46	9.0±0.32	2.69	1.72	5.59
	西 海 岸	1,421	24.6±1.14	39.0±1.23	23.6±1.12	12.9±0.88	3.04	2.01	4.95
	鹿 島 村	1,433	38.1±1.28	32.4±1.23	22.9±1.11	6.6±0.70	2.20	1.63	6.17
九州北部	64,735	28.3±0.18	40.9±0.19	20.9±0.16	9.8±0.12	2.99	1.69	5.32	
九州南部	31,467	30.2±0.26	39.9±0.28	20.1±0.23	9.7±0.17	2.89	1.62	5.49	
九州総計	96,202	28.9±0.15	40.6±0.16	20.7±0.13	9.7±0.10	2.96	1.67	5.37	

の  $\text{Diff} = 7.5\% \pm 1.50\%$ ). B型の頻度については 3 群ともに南九州地方人に優つてお り、西海岸人においては北九州地方人と  $2.7\% \pm 1.63\%$ 、また南九州地方人と  $3.5\% \pm 1.12\%$  のそれぞれ頻差がある。AB 型の頻度においてはとくに西海岸人において南九州地方人のそれに優つており(北九州地方人の  $\text{Diff} = 3.1\% \pm 0.89\%$ 、南九州地方人の  $\text{Diff} = 3.2\% \pm 0.9\%$ )、鹿島村人において劣つている(北九州地方人の  $\text{Diff} = 3.2\% \pm 0.71\%$ 、南九州地方人の  $\text{Diff} = 3.1\% \pm 0.72\%$ )。

#### 4. 饨島の東西両海岸および鹿島村人と奄美大島ならびに琉球地方人とのABO 式血液型の頻度比較

甑島はすでに第1編において述べたように、その島嶼的位置関係から著しく南方の奄美大島諸島ならびに琉球列島などの影響を考えらる。和田の血液型頻度の調査によれば、奄

美大島諸島は鹿児島県人よりもむしろ琉球列島人に近似していて、沖縄地方人とともに南洋人の影響をうけているといふ。これら奄美大島地方人や琉球列島人と甑島の東西両海岸および鹿島村人のそれを比較対照すれば表 8 のごとくである。

奄美大島ならびに琉球列島地方人の ABO 式血液型は一般にO型の頻度がA型のそれに比べてたかく、ついでB型の頻度がたかく、とくに台湾島にちかい先島地方人、すなわち、宮古島、石垣島および与那国島人に特徴的頻度がみとめられる。いま甑島における上述の成績を調査数の多い沖縄島人のそれと比較すると、一見O型の頻度において東海岸人はこれに近似しているがやゝ劣つており、鹿島村人のみは  $4.8\% \pm 1.31\%$  の頻差をもつてこれに優つている。而して西海岸人では  $8.7\% \pm 1.18\%$  の頻差をもつて沖縄島人に遙かに劣つてゐる。ただA型の頻度についてはとくに著

表 8

地 方	調査人員	O	A	B	AB	p	q	r	報告者	
甑 島	東海岸	7,913	31.3±0.52	37.4±0.58	22.3±0.46	9.0±0.32	2.69	1.72	5.59	村 永
	西海岸	1,421	24.6±1.14	39.0±1.23	23.6±1.12	12.9±0.88	3.04	2.01	4.95	村 永
	鹿島村	1,433	38.1±1.28	32.4±1.23	22.9±1.11	6.6±0.70	2.20	1.63	6.17	村 永
奄美大島		1,182	34.6±1.38	39.3±1.42	17.4±1.10	8.6±0.82	2.75	1.37	5.88	和 田
	大 島	283	34.3±2.82	31.8±2.77	23.7±2.53	10.2±1.80	2.79	1.33	5.88	谷 口
	沖 線	19,962	33.3±0.33	35.7±0.34	21.4±0.29	9.7±0.21	2.57	1.66	5.77	南風原，西 栗下，等
先 島	宮古島	2,080	31.2±0.68	33.7±0.70	27.7±0.65	7.5±0.39	2.40	2.02	5.58	南風原
	宮古島	1,123	35.8±1.41	36.8±1.42	20.3±1.19	7.1±0.76	2.53	1.49	5.98	原後藤
	宮古島	150	41.3±4.02	26.7±3.61	24.7±3.52	7.3±2.12	2.19	2.28	6.53	桐原，白
	与那国島	868	34.3±1.09	29.3±1.04	33.0±1.08	3.5±0.42	1.96	2.19	5.86	南風原
	石垣島	200	28.5±3.22	32.0±3.31	33.5±3.37	11.0±2.24	2.28	2.38	5.34	桐原，白

差がみとめられない。

B型の頻度については3群ともにやゝ頻度のたかい傾向において琉球列島人、なかんづく先島地方人に接近している。つぎにAB型の頻度については西海岸人は沖縄島人に優つており( $Diff=3.2\% \pm 0.91\%$ )、東海岸はこれにより接近し、鹿島村人はこれに劣つて $3.1\% \pm 0.73\%$ の頻差がある。

これを要するに甑島の東西両海岸および鹿島村人の血液型を奄美大島ならびに琉球列島地方人のそれと比較対照すれば、東海岸および鹿島村人においてO型の頻度のたかい点において一応これら地方人の影響も考えられるが、後者においてはさらに頻度がたかくなつており、しかも西海岸人はこれら地方人とは頻差があつてはるかに劣つている。

##### 5. 镧島東西両海岸および鹿島村人と台湾高砂族とのABO式血液型頻度比較

台湾高砂族は人種学上馬来系に属する種族

とみられ、平埔、タイヤル、ブヌン、アミ、ヤミ、ツオウ、パイワンおよびサイセットの8族に大別されており、各族間の言語や風俗、習慣、神話や伝説などがきわめて異つている。益子はこれらのうちパイワン族の指紋をジャワ島インドネシア人のそれと比較し、その頻度がきわめて類似していることをみとめ、なお岩永、益子、中尾らはパイワン族のABO式血液型の頻度が南方民族のジャワ島インドネシア人やミクロネシア人中チャモロ族、およびフィリッピン諸島中フィリッピン土族やモロ族に近似しており、さらにボコボ族にも近接していると称している。

しかるに、一方アミおよびヤミ族はこれと著しくその趣を異にし、ヤミ族はむしろメラネシア人中パプアやミクロネシア人中カナカ族とのつながりが想像されると唱えている。

そこで台湾高砂族中で比較的くわしく調査されている代表的のパイワン、アミおよびヤ

表 9

種 族	調査人員	O	A	B	AB	p	q	r	報告者	
甑 島	東海岸	7,913	31.3±0.52	37.4±0.58	22.3±0.46	9.0±0.32	2.69	1.72	5.59	村 永
	西海岸	1,421	24.6±1.14	39.0±1.23	23.6±1.12	12.9±0.88	3.04	2.01	4.95	村 永
	鹿島村	1,433	38.1±1.28	32.4±1.23	22.9±1.11	6.6±0.70	2.20	1.63	6.17	村 永
台 湾 高 砂 族	パイワン	1,572	37.7±1.22	16.1±0.93	38.9±1.23	7.3±0.66	1.22	2.64	6.14	陳 倉
	ア ミ	15,487	35.1±0.38	30.7±0.37	25.7±0.35	8.4±0.22	2.19	1.89	5.92	丸 分 島
	ヤ ミ	629	42.6±1.97	39.9±1.95	12.6±1.32	4.9±0.86	2.56	0.91	6.33	山 等 山 島

ミ族の ABO 式血液型の頻度を飯島における 3 群のそれと比較表示すると、表 9 のごとくである。すなわち、パイワン族は O および B 型の頻度がたかく、A および AB 型の頻度はひくい。そしてアミ族では O および B 型の頻度が A 型のそれに比べてたかいが、パイワン族のそれに比較すると劣つている。なおヤミ族では O および A 型の頻度が B 型に比べてたかく、B 型の頻度がパイワンおよびアミ族のそれに比べていづれも劣つている。そしてこれら 3 者はいづれも O 型の頻度が東海岸人のそれにたいしパイワン族において  $6.4\% \pm 1.32\%$ 、アミ族において  $3.8\% \pm 1.32\%$ 、ヤミ族において  $11.3\% \pm 2.03\%$  とそれぞれ頻差があり、いづれもこれに優つており、鹿島村人ではこれら 3 者、とくにパイワン族に著しく近接していてほとんど頻差がみとめられず、たゞ A および B 型の頻度については類似的頻差はないが、AB 型の頻度のひくい点もこの種族に甚だしく近接している。そこで鹿島村人は O および AB 型の頻度よりみてはなはだしくパイワン族に接近していることとなる。

## 6. 飯島の東西両海岸および鹿島村人と ジャワ島インドネシア人その他との ABO 式血液型の頻度比較

著者はすでに第 1 編において飯島の東海岸および鹿島村人の u 型の指紋関係の頻度が w 型指紋関係のそれに比べて優る点が南方民族ジャワ島インドネシア人のそれに近接するとのべた。なお岩永、益子、中尾らも ABO 式血液型の頻度がジャワ島インドネシア人はミクロネシア人中チャモロ族、台湾高砂族中パイワン族および琉球列島人中先島地方人に近似し、ミクロネシア人中のカナカ族および台湾高砂族中のヤミ族はメラネシア人中パプア族に近似し、ジャワ島インドネシア人のそれとは差異があるとのべている。

著者は飯島の東西両海岸および鹿島村人について指紋の場合と同様、ジャワ島インドネシア人を中心とした南方諸地域人の ABO 式血液型の頻度と比較する目的をもつて代表的種族について表示すると表 10 に示すとくである。

表 10

種族	調査人員	O	A	B	AB	p	q	r	報告者	
飯島	東海岸	7,913	$31.3 \pm 0.52$	$37.4 \pm 0.58$	$22.3 \pm 0.46$	$9.0 \pm 0.32$	2.69	1.72	5.59	村永
	西海岸	1,421	$24.6 \pm 1.14$	$39.0 \pm 1.23$	$23.6 \pm 1.12$	$12.9 \pm 0.88$	3.04	2.01	4.95	村永
	鹿島村	1,433	$38.1 \pm 1.28$	$32.4 \pm 1.23$	$22.9 \pm 1.11$	$6.6 \pm 0.70$	2.20	1.63	6.17	村永
ジャワ島										
インドネシア人	3,368	$39.8 \pm 0.84$	$23.5 \pm 0.73$	$30.2 \pm 0.79$	$6.5 \pm 0.42$	1.64	2.05	6.31	三上	
チャモロ	215	$40.0 \pm 3.34$	$22.4 \pm 2.86$	$31.2 \pm 3.16$	$6.1 \pm 1.63$	1.57	2.11	6.32	福田	
カナカ	629	$44.1 \pm 1.66$	$33.6 \pm 1.58$	$17.6 \pm 1.27$	$4.7 \pm 0.71$	2.16	1.20	6.64	福田	
フィリッピン土族	183	$40.0 \pm 3.62$	$24.0 \pm 3.16$	$30.0 \pm 3.39$	$6.0 \pm 1.76$	1.66	2.02	6.32	Pasquale	
モロ	442	$41.6 \pm 2.34$	$23.1 \pm 2.01$	$30.3 \pm 2.19$	$5.0 \pm 1.04$	1.57	1.99	6.45	Grove	
ボゴボ	302	$53.6 \pm 2.87$	$16.9 \pm 2.16$	$26.5 \pm 2.54$	$3.0 \pm 0.98$	1.07	1.61	7.32	Grove	
パプア	764	$54.2 \pm 1.80$	$32.5 \pm 1.69$	$10.2 \pm 1.09$	$3.1 \pm 0.63$	1.96	0.68	7.36	小林	

すなわち、ジャワ島インドネシア人やメラネシア人中パプア族、ミクロネシア人中チャモロおよびカナカ族やフィリッピン諸島人中フィリッピン土族、モロおよびボゴボ族等はいづれも O 型の頻度がたかく、とくにフィリッピン諸島人中ボゴボ族およびメラネシア人中パプア族においてその頻度がはなはだたか

い。A 型の頻度はミクロネシア人中カナカ族およびメラネシア人中パプア族をのぞけば、各族においてきわめてひくい、B 型の頻度はこの両族をのぞけばいづれもたかい。AB 型の頻度は各種族ともいづれも低率である。

すなわち、ジャワ島インドネシア人を中心としたこれら南方諸地域人は、いづれも O 型

の頻度をきわめてたかく、ついで一般にB型の頻度がこれにつづき、A型およびAB型の頻度はひくい。而してO型の頻度は著者の比較材料につき、南方地方人から台湾高砂族、琉球列島ならびに奄美大島諸島人と南方から北上するにしたがつて頻度が漸減している。

甑島東海岸および鹿島村人においてO型の頻度のたかい点は、これら南方地方人に接近する傾向を示すが、とくに鹿島村人におけるO型の頻度がジャワ島インドネシア人、ミクロネシア人中チャモロ族やフィリッピン土族、ボゴボ族にきわめて接近して高頻度にあることは指紋の場合と同様、興味の存するところである。

#### 7. 甑島の東西両海岸および鹿島村人と 朝鮮人とのABO式血液型の頻度比較

すでに緒言にのべた理由をもつて甑島より南方海上に連なる主な諸地方人と繰々比較考察してきたが、さらに九州地方に存在して

甑島と位置的に関係を想像される朝鮮人との比較をこころみた。朝鮮人のABO式血液型について旧京城帝大法医学教室において広汎な地域と多くの調査数について系統的の調査がなされている。その成績によると朝鮮人の血液型学的位置は日本人と満蒙人との間に位し、さらに朝鮮の北部、中部および南部と3大別して考察し満蒙から北鮮え、北鮮から南部朝鮮え、そして南部朝鮮から日本えと移行したことを物語るような漸変的数値ないし形姿を示しており、日本人と朝鮮人および満蒙人とはたがいに漸変的な移行混成によるものゝようであると報告している。

さらに岩永、益子、中尾らは九州日本人のそれと比較して、九州日本人はOおよびA型の頻度において優つており、BおよびAB型の頻度において劣るが、北九州日本人は朝鮮人のそれに接近してその影響が考えられると言じている。

表 1 1

地 方	調査人員	O	A	B	AB	P	q	r	
甑 島	東 海 岸	7,913	31.3±0.52	37.4±0.58	22.3±0.46	9.0±0.32	2.69	1.72	5.59
	西 海 岸	1,421	24.6±1.14	39.0±1.23	23.6±1.12	12.9±0.88	3.04	2.01	4.95
	鹿 島 村	1,433	38.1±1.28	32.4±1.23	22.9±1.11	6.6±0.70	2.20	1.63	6.17
朝鮮北部	11,093	28.5±0.43	30.6±0.44	31.1±0.44	9.8±0.28	2.32	2.32	5.34	
朝鮮中部	6,468	29.2±0.57	31.5±0.58	29.8±0.57	9.6±0.37	2.36	2.24	5.41	
朝鮮南部	6,465	26.0±0.55	36.0±0.60	26.7±0.55	11.4±0.40	2.76	2.14	5.10	
計	24,929	27.9±0.28	32.3±0.30	29.5±0.29	10.3±0.19	2.45	2.27	5.26	

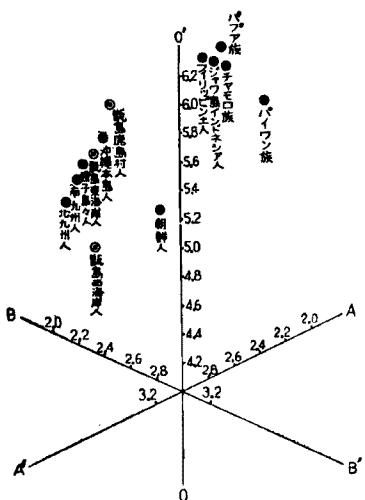
著者は甑島々人と朝鮮人とを比較する目的をもつてこれを表示すると表11に示すようである。すなわち、朝鮮人については北部においてB, A, OおよびAB型の順序となるほか、中部および南部はいづれもA, B, OおよびABの順序となり、3地方ともにO型はAおよびB型の頻度に比べてすぐない。つぎに朝鮮人と九州日本人のABO式血液型の頻度について観察すると、九州日本人においてOおよびA型の頻度において優つており、BおよびAB型の頻度において劣つている。そして甑島々人においてはO型の頻度について東海

岸および鹿島村人はこれに優つており（東海岸 Diff=3.4%±0.59%，鹿島村人 Diff=10.2%±1.30%），西海岸人はこれに劣つている（Diff=3.3%±1.17%）。A型の頻度については東西両海岸人において優つており（東海岸人 Diff=5.1%±0.65%，西海岸人 Diff=6.7%±1.26%），鹿島村人とは著差がなく、B型の頻度についていづれも朝鮮人に劣つており、AB型の頻度については鹿島村人において劣つている（Diff=3.7%±0.72%）以外には著差はみとめられなかつた。

すなわち、甑島の東海岸および鹿島村人はO型の頻度の優る点において朝鮮人と異り、南海岸人はこれに劣るがより朝鮮人に接近するごとに思われて指紋の場合に一致した成績をえた。因みに支那大陸人におけるABO式血液型について信頼すべき調査成績の存在しないことは残念である。

以上第3項から7項にわたる甑島東西両海岸および鹿島村人のO型の頻度を中心として比較した主な近隣諸民族種族との関係を図示すると図1のごとくであり、西海岸人は北方地方人の、また東海岸および鹿島村人は南方地方人の影響がそれぞれうかゞわれ、とくに鹿島村人の血液型学的位置についてはきわめて興味がある。

図 1



## 総括

著者は第1編指紋の場合と同様の主旨をもつて、甑島東海岸、西海岸および鹿島村人のABO式血液型の頻度を調査した成績を総括するところのごとくである。

## 1. 镧島の東西両海岸および鹿島村人の頻度比較

東海岸および鹿島村人はO型の頻度において西海岸人に優つており、しかも前者においては鹿島村人においてよりその頻度がたかい。

A型の頻度においては東海岸および西海岸人は鹿島村人に優つてゐるが、前者間においては著差がみとめられない。B型の頻度においては3者間にはほとんど頻差がみとめられないが、総体的に頻度がたかく、AB型の頻度においては西海岸人は東海岸および鹿島村人に優つており、鹿島村人においてははなはだしくひくい。

## 2. 镧島の東西両海岸および鹿島村人と

## 九州各地方人との頻度比較

東海岸人はO型の頻度のたかい点で南九州地方群に属し、とくに種子島々人に近似しており、鹿島村人はさらにこれよりも頻度がたかい。西海岸人は北九州地方人に近接するがこれよりも頻度が低い。A型の頻度においては東西両海岸人は南北九州地方人ととくに頻差がみとめられないが鹿島村人はこれに劣つてゐる。B型の頻度は3群とも南北九州地方人に優つてゐる。AB型の頻度については、西海岸人において優つてゐるが、鹿島村人においては九州各地方人に比べてきわめてひくかつた。

## 3. 镧島の東西両海岸および鹿島村人と

## 奄美大島ならびに琉球列島地方人との頻度比較

東海岸ならびに鹿島村人において、O型の頻度のたかい点で奄美大島および琉球列島地方人に接近しており、ためにこれら地方人の影響が考えられる。而して後者においてはより頻度がたかく、より南方的と思われる西海岸人においてはこれら地方人に劣つてその間に頻差がある。そして3群ともにB型の頻度において著差がみとめられないが、その頻度のやゝたかい傾向はこれら地方人に接近するの感がある。

## 4. 镧島の東西両海岸および鹿島村人と

## 台湾高砂族との頻度比較

台湾高砂族中のパイワン、アミおよびヤミ族はいづれもO型の頻度がたかく、ついでパイワンおよびアミ族においてB型、ヤミ族ではA型の頻度がたかい。東海岸および鹿島村人にO型の頻度のたかい点はこれら3者に

類似しており、とくに鹿島村人はパイワン族に接近してほとんど頻差がみとめられず、AB 型の頻度のひくい点もパイワン族に接近している。

#### 5. 甑島の東西両海岸および鹿島村人と ジャワ島インドネシア人その他との 頻度比較

インドネシア人中ジャワ族やメラネシア人、パプア族、ミクロネシア人中チャモロやカナカ族、フィリッピン諸島人中フィリッピン土族やモロおよびボゴボ族等の南方地方人はいづれもO型の頻度がたかく、とくにパプア族およびボゴボ族においてそれが著明である。

甑島東海岸および鹿島村人においてO型の頻度のたかい点はこれら南方地方人に接近する傾向を示すも、とくに鹿島村人においてO型の頻度がジャワ島インドネシア人やミクロネシア人中チャモロ族、フィリッピン諸島人中フィリッピン土族およびボゴボ族等にきわめて近接していることは、指紋の場合と同様に興味の存するところである。

#### 6. 甑島の東西両海岸および鹿島村人と 朝鮮人との頻度比較

東海岸および鹿島村人がO型の頻度において朝鮮人に優る点においてこれと異なつており、これに反して西海岸人はこれに劣つてゐるがより朝鮮人に接近しているように思われ、指紋の場合と一致している。

7. 以上甑島の東西両海岸および鹿島村人における ABO 式血液型の頻度が東海岸および鹿島村人において、南方地方人に頻度のたかいO型について南九州人に優つているが、東海岸人は南九州人ならびに種子島々人にきわめて接近しており、さらにこれより奄美大島諸島、琉球列島人、台湾高砂族、ミクロネシアおよびインドネシアの各民族種族等と漸増的に接近する傾向があり、鹿島村人における頻度は台湾高砂族中パイワン族およびジャワ島インドネシア人のそれときわめて近似しており、きわめて南方的である。この点 ABO 式血液型からみた東海岸および鹿島村人は指紋の場合と同様に南方地方人の影響がうかが

われ、西海岸人はO型の頻度の低率である点から朝鮮人に接近することもまた指紋の場合と同様である。

#### 全編の総括ならびに考察

著者は2編にわたつて甑島々人の指紋（第1編）ならびにABO式血液型（第2編）の頻度について、甑島の文献的考察からこれを東西両海岸および鹿島村の3群にわけて比較し、さらにその位置的関係から主として南方海上に連なる南方諸地域地方人のそれと比較考察した結果を総括し、これに考察をくわえるとつきのことである。

第1編の緒言にものべたごとく、日本列島が地理的位置から考察して太古から周囲の諸地方人からの人種的交渉のあつたであろうことは当然考えられるところであるが、この点九州日本人にたいして南方民族の影響がとくに考えられる。これは南方から日本近海を流れる北赤道海流の関係や文化交渉からみてもうなづくことができるものである。すなわち、南方から赤道海流は乗つて海上に飛石的に存在する各島嶼を利用し、または大陸の海岸づたいに往来したものも容易と考えられる。そして日本における稻の栽培といふ、家屋の建築様式といふ服装や語彙といふ、いづれも南方に縁のあるものが多い。さらに考古学ならびに人類学的にもその影響のみとめられるものが多く、西村のごときは往古の九州における隼人と称する種族は考古学、言語学、神話学および土俗学上から観察してあきらかに馬来系の種族であると力説しているほどである。

当教室においては、三上教授が東印度諸島ジャワ島においてインドネシア人の指紋ならびに血液型を調査された成績を中心として日本人、とくに九州日本人のそれと比較してその人類学的研究を企図し、すでに中村、益子、馴田、西らは九州日本人、とくに南九州日本人の指紋の頻度がジャワ島インドネシア人を中心とする種族のそれに近似しており、北九州日本人とは大部分の指紋の頻度において著

差のあることを指摘し、この点南九州日本人には多分に南方地方人の影響のあることが想像されており、とくに種子島々人にこの点が濃厚であることを西はみとめている。一方これと平行しておこなわれた ABO 式血液型の頻度についてもこの点がうかがわれ、岩永、益子、中尾、馴田、西らによつて九州日本人が南方地方人に頻度のたかい O 型において、北九州地方人と南九州地方人との間に頻差があり、後者においてその頻度たかく、琉球列島地方人に近接しており、日本列島と南方諸地域島嶼人を一連的に考察すると、血液型の頻度においても南九州日本人にたいしては南方地方人の民族交流が考えられると報告している。

さて、著者が調査資料としてえらんだ甑島は九州島薩摩半島の西方海上に位し、西方に支那大陸、南方に奄美大島諸島および琉球列島等南方地方島嶼が点々と連つており、その位置的関係等から考察して多分に南方諸地域の影響のあることが想像されるのである。而して同島の東海岸は九州島に、西海岸は支那大陸等にそれぞれ相対しており、鹿島村（外来種族と考えられているが文献的資料をまつたく欠く）はその東海岸に属している。

この甑島の東西両海岸ならびに鹿島村人の指紋については、東海岸および鹿島村人は u 型指紋関係において、その頻度が西海岸人に比べてたかく、両群間においても後者にその頻度がたかい。また西海岸人は w 型指紋関係において、東海岸および鹿島村人に比べて頻度がたかい。ABO 式血液型については、東海岸および鹿島村人は O 型の頻度において西海岸人のそれに比べて優つており、両群間においても後者にその頻度がたかい。B 型の頻度は 3 群間に頻差をみとめ難いが、その頻度は総体的にたかい。AB 型の頻度は鹿島村人においてとくに低い。

すなわち、これら 3 群間には種族的にも差異のあるごとく思われ、その地理的関係などから考察してきわめて興味深いものがある。

つぎに甑島々人と九州地方人の指紋の頻度

については、東海岸および鹿島村人が u 型指紋関係において優る点よりして種子島々人ならびに南九州地方人に偏しており、とくに鹿島村人においてはこれらに優つている。西海岸人は大部分の指紋の点において北九州地方人に偏している。ABO 式血液型の頻度については、東海岸人は O 型の頻度がたかい点において南九州地方人、とくに種子島々人に近似しており、そして鹿島村人はなおこれよりも頻度がたかい。西海岸人は北九州地方人に近接しているが、これよりもその頻度がひくい。B 型の頻度は 3 群とも南九州地方人に優つっている。

甑島々人と近隣諸民族ならびに種族との指紋については、同島東海岸および鹿島村人が u 型指紋関係において頻度がたかく、w 型指紋関係において頻度のひくい点はインドネシア人その他の南方諸民族に近接しており、とくに鹿島村人のそれがこれらにきわめて近接している。而して同島西海岸人においては w 型指紋関係において優る点から満蒙人、満洲人、北、中、南支那人や朝鮮人、いわゆる大陸人に偏している。一方 ABO 式血液型の頻度では東海岸および鹿島村人において O 型の頻度のたかい点は南方地方人に接近する傾向を示し、東海岸人は南九州地方人、とくに種子島々人に接近し、鹿島村人は台湾高砂族中パイワン族およびジャワ島インドネシア人にきわめて近接している。西海岸人は O 型の頻度から朝鮮人に近接している。

これを要するに甑島の東西両海岸および鹿島村人の指紋と ABO 式血液型の頻度を九州日本人、とくに南九州地方人や南方地方人と比較した成績は、東海岸人は南九州地方人とくに種子島々人と、鹿島村人はジャワ島インドネシア人と、さらに西海岸人は朝鮮人を介して大陸人にそれぞれ近接している傾向を示したこととは同島の位置的関係その他から考察してもきわめて興味あるところであり、とくに鹿島村が從来朝鮮人と考えられていた（文献に明確ではない）ことが著者の指紋ならびに血液型の頻度よりの検索から、むしろ南方

系に属するがあきらかとなつたことははなはだ興味の存するところであつた。

### 結論

鹿島々人の男女 9,530 名の指紋および 10,767 名の ABO 式血液型について同島の東海岸および西海岸人、さらに外来種族視される鹿島村人にわけて比較し、さらに同島の位置その他から勘考して主としてこれより南方諸地域の諸民族種族および支那大陸人のそれと比較した結果は同島東海岸人ならびに鹿島村人は南九州日本人同様、奄美大島諸島なら

びに琉球列島、さらにシャワ島インドネシア人等の南方諸地方と一連的に考察する場合これら南方地方人との民族交流が想像され、とくに鹿島村人において一層濃厚のごとくに思考された。而して西海岸人は朝鮮人を介して支那大陸人の影響が考えられた。

稿を終るに当り、御懇篤な御指導と御校閲を賜わりました恩師三上教授に満腔の敬意と深甚な謝意を表するとともに、終始変わぬ御鞭撻を賜わつた恩師町野教授に厚く御礼申し上げます。さらに本研究に協力していた旨い各位にたいし謝意を表します。

(本論文の要旨は第57次九州医学会および第42次日本法医学会総会において発表した)

### 主 要

- 1) 福田礼之：犯罪誌，14巻，2号，29頁（昭15）
- 2) 古畑、吉沢：世界民族の ABO 式血液型分布表。
- 3) 後藤、嵩原・台湾医誌，32巻，10号（昭8）
- 4) 岩永、益子、中尾：久留米医誌，13巻，1—2号（昭25）
- 5) 桐原、白：台湾医誌，242号（大14）
- 6) 桐原、白：台湾医誌，38巻，8号，1153頁（昭3）
- 7) 近藤喜一：台湾医誌，248巻，1058頁（大14）
- 8) 岸孝義：十全会誌，32巻，8号（昭2）
- 9) 桐原真一：日本学術協会報告，4巻，686頁（昭3）
- 10) 栗下靜雄：長崎医科大学法医学教室業報，4巻，1号（昭7）
- 11) 小林ちよ：犯罪学誌，14巻，2号（昭15）
- 12) 鎌倉正雄：日本法医誌，7巻，4号，222頁（昭28）
- 13) 小林宏志：広島医学，6巻，1—2号（昭28）
- 14) 丸山、分島：台湾医誌，30巻，5号，508頁（昭6）
- 15) 丸山芳登：日本学術協会報告，19巻，1号（昭11）
- 16) 南風原朝保：台湾医誌，35巻，1号（昭11）
- 17) 牧野久吉：犯罪誌，13巻，3号，87頁（昭14）
- 18) 西 弘二・長崎医科大学法医学教室業報，3巻，1号（昭6）
- 19) 西 要 鹿児島大学医学誌，8巻，5号，6号（昭32）
- 20) 佐藤、国房、野村、森森：犯罪誌，9巻，6号，42頁（昭10）
- 21) 谷口慶二：鹿児島医誌，11巻，2号（昭9）
- 22) 和田国三郎：血液型研究，15号（昭7），熊本医誌，9巻，1号（昭8）

### 献 文

A Study on the Islanders of Koshikijima, from the Viewpoint  
of their Fingerprint and Blood Type.

Part II.

Frequency of ABO-Bloodtype of the Islanders of Koshikijima

By

Kenzo MURANAGA

Department of Legal Medicine, Faculty of Medicine, Kagoshima University  
(Director: Prof. Dr. Y. MIKAMI)

The auther, having examined the frequency of ABO-type blood-types that appears in the total 10,767 inhabitants, containing (including) the eastern shoremen of Koshikijima (male, 4,175, female, 3,738), the western-shoremen (male 726, female, 695) of the same, as well as the villagers of Kashima (male 671, female 762), with similar method as used in the case that examined the fingerprint, has arrived at results as follows:

I. Comparison in frequency proved among the eastern-shoremen, the western-shoremen, both of Koshikijima, and the village people of Kashima.

The east-shoremen and Kashima people proved superior to the west-shoremen in their frequency of O-type blood, and besides, the former proved higher in ratio than Kashima villagers. As to A-type frequency, both the east-and west-shoremen surpassed Kashima villagers, but while in the former no marked difference has been detected among the three, the frequency proved rather high in general; in the frequency of AB-type, the west-coasters proved highest, compared to the east-shoremen or Kashima-villagers, the last proving very low indeed.

II. Comparison of those people of Koshikijima, as well as of Kashima, with several local peoples of Kyushu.

In their high ratio of frequency in O-type blood, the east-shoremen seem to belong the local people of Southern Kyushu; esp., they closely resemble the people of Tanegashima; whereas, the Kashima-villagers enjoy a still higher ratio. The west-shoremen closely approach to the local people of Northern Kyushu, but prove lower in ratio. In A-type frequency, both the east and west-shoremen indicate no special diversity, compared to the Noerthern and Southern Kyushu men; only the Kashima villagers have proved as inferior. In B-type frequency, the former three groups alike stand higher than the South-Kyushu men. In AB-type frequency, the western-shoremen is superior, but in Kashima villagers it has proved lower than local peoples of Kyushu.

III. In eastern as well as western shoremen and Kashima villagers, the frequency of O-type which often characterized the southern peoples, shows more outstanding than in the South-Kyushu men; the eastern shoremen approach close to peoples of South-Kyushu and Tanegashima; moreover, have tendency to approach to such races and tribes as Amami-Oshima, Loochou, Taiwan-Takasago, Micronesia and Indonesia, with gradual stages in crease; the frequency in Kashima people so closely resembles those of Paiwan triwan tribe of Taiwan-Takasago race or Indonesians of Java, proving remarkably southern. In this point, the east-peopple and Kashima people, as seen from the fingerprint, reveal their southern quality; while west-shoremen, similar to the case of fingerprint, approaches to the Koreans in their low frequency of O-type blood type.